

### 19. カリフラワー

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	-	-	野菜類 (キャベツを除く)
	ドイツボルドーA	散布	-	-	野菜類
36	ネビジン粉剤	全面土壌混和	は種又は定植前	1回	
29	フロンサイド粉剤	全面土壌混和	は種又は定植前	1回	

・殺菌剤(参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) コサイド3000	散布	-	-	野菜類

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
6	アフーム乳剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
-	コナガコンープラス (ロープ状製剤)	支柱を立てロープ状の製剤を 対象作物の上部に張り渡す。	対象作物の栽培全 期間	-	コナガ、オオコナガが 加害する農作物等
-	コナガコンープラス (ツインチューブ製剤)	作物の生育に支障のない高 さに支持棒等を立て支持棒 にディスプレイを巻き付け固 定し圃場に配置する。	対象作物の栽培全 期間	-	コナガ、オオコナガ、ト ウコガが加害する農 作物等
-	コンフューザーV	作物の生育に支障のない高 さに支持棒等を立て支持棒 にディスプレイを巻き付け固 定し圃場に配置する。	対象作物の栽培全 期間	-	野菜類
11	ゼンターリ顆粒水和剤	散布	発生初期(但し、収 穫前日まで)	-	野菜類(はくさい キャベツを除く)
1	ダイアジノン水和剤34	散布	収穫30日前まで	2回以内	
1	ダイアジノン粒剤3	土壌混和	収穫30日前まで	2回以内	
11	トアロー水和剤CT	散布	発生初期(但し、収 穫前日まで)	-	野菜類(ハセリ、えご ま(葉)を除く)
5	ディアナSC	散布	収穫前日まで	2回以内	
11	バシレックス水和剤	散布	発生初期(但し、収 穫前日まで)	-	野菜類
30	プロフレアSC	散布	収穫前日まで	3回以内	はなやさい類

・殺虫剤(参考農薬)

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオン乳剤	散布	収穫3日前まで	5回以内	
5	スピノエース顆粒水和剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
1	ダイアジノン乳剤40	散布	収穫30日前まで	2回以内	
1	マラソン乳剤	散布	収穫3日前まで	5回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウィルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
根こぶ病 (F)	は種期及び 定植期	1. 被害根は集めて、ほ場外に埋却する。 2. 土壌酸度を pH7 以上になるように、石灰を施用する。 3. は種又は定植前に 10a 当りネビジン粉剤 20～30kg、フロンスайд粉剤 30～40kg のいずれかを全面に均一散布し、土壌とよく混和する。	1. 排水の悪いほ場で発生しやすい。 2. フロンスайд、ネビジンは、面積に応じた薬剤量を厳守する。
黒腐病 (B)	生育期間	1. Zボルドー500 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. コサイド3000 の 2,000 倍液を散布する。	1. 多発ほ場では 2～3 年、アブラナ科野菜を連作しない。 2. 過湿、過乾、高温期栽培、肥切れの場合に発生しやすい。 3. 発病前から予防散布する。
軟腐病 (B)	生育期間	1. ドイツボルドーA、又はZボルドーの 500 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. コサイド3000 の 2,000 倍液を散布する。	4. 無機銅剤は高温条件下、連続散布で薬害が発生する恐れがあるので特に注意する。炭酸カルシウム水和剤(クレフロン) 100～200 倍液を加用すると薬害を軽減することができる。
コナガ タマナギン ウワバ ヨトウガ アオムシ	育苗期から 収穫まで	1. 別表により、いずれかの薬剤を散布する。	1. 加害の初期に防除する。
コナガ	生育期間	1. コナガコンプラス(ローブ状製剤)を 10a に 20m、支柱を用いてカリフラワーの上に設置する。 2. コナガコンプラス(ツインチューブ製剤)を長さ 50～60cm 程度の棒の端に 2 本留めたものを 1 セットとし、10a 当り 50 セットを 4 m × 5 m 間隔格子状には場内へ均等に配置する。 [参考農薬] 1. スピノエース顆粒水和剤の 5,000 倍液を散布する。	1. コナガの発生初期から、3 ha 以上の面積で共同使用する。 2. コナガ以外の害虫では、コナガコンプラスはオオタバコガと、ヨトウガ(ツインチューブ製剤のみ)に登録がある。対象外害虫の発生が認められたら殺虫剤で防除する。 3. コナガの密度が高まったら、殺虫剤を散布する。 4. スピノエースは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
コナガ オオタバコガ タマナギン ウワバ	生育期間	1. コンフューザーVを長さ 50～60cm 程度の棒の端に 4 本留めたものを 1 セットとし、10a 当り 25 セットを 6 m × 7 m 間隔格子状には場内へ均等に配置する。	1. コナガ対象の場合、発生初期(概ね 4 月下旬頃)に設置する。 2. オオタバコガ対象の場合、第 1 世代成虫発生初期(概ね 7 月上旬～中旬頃)に設置する。 3. タマナギンウワバ対象の場合、越冬世代成虫発生期(概ね 4 月下旬頃)に設置する。 4. 3 ha 以上の面積で共同利用する。  (続く)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
コナガ オオタバコガ タマナギン ウワバ	生育期間		5. 本剤はオオタバコガ、タマナギンウワバ、イラクサギンウワバ、ヨトウガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、コナガに交信攪乱効果がある。対象外の害虫の発生が認められたら殺虫剤で防除する。 6. 多発時は殺虫剤を散布する。
ネキリムシ (カブラヤガ)	定植前	1. ダイアジノン粒剤3を10aに6～9kg植付前に散布し土壌混和する。	1. ダイアジノンは魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
アブラムシ類	生育期間	1. ダイアジノン水和剤34の2,000倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ダイアジノン乳剤40の1000倍液、アディオン乳剤、マラソン乳剤の2,000～3,000倍液のいずれかを散布する。	1. アディオンは蚕毒及び魚毒に、ダイアジノンは魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。

【別表】 殺虫剤の使用方法及び効果（表中の登録内容は令和5年11月30日現在）

薬剤の系統	IRACコード	薬剤名	希釈倍数、施薬量	コナガ	タマナギンウワバ	ヨトウガ <sup>1)</sup>	アオムシ	アブラムシ類
合成ピレスロイド剤	3	アディオン乳剤	2,000倍	△				○
B T 剤	11	ゼンターリ顆粒水和剤	2,000	○*		○	○	
		トアロー水和剤CT	1,000	○*	○	○		
		バシレックス水和剤	1,000	○*	○	○		
スピノシン剤	5	スピノエース顆粒水和剤	5,000	○				
		ディアナSC	2,500	○*		○	○	
有機リン剤	1	ダイアジノン乳剤40	1,000	△			○	○
		ダイアジノン水和剤34	2,000	△				○*
		マラソン乳剤	2,000～3,000					○
メタジアミド系	30	ブロフレアSC	2,000	○*	○ <sup>2)</sup>	○	○*	
ミルベマイシン系	6	アフファーム乳剤	2,000	○*			○*	

【効果凡例】 ○\*：効果ある（対象害虫に普及済み） ○：効果ある（対象害虫に未普及） △：効果劣る

1)：ヨトウガは、農薬適用害虫名のヨトウガ、ヨトウムシを含む。

2)：登録はウワバ類。

【注】1. アディオン、アフファーム、ブロフレアは蚕毒及び魚毒に、バシレックス、ゼンターリ、ディアナは蚕毒に、ダイアジノンは魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。

2. トアローは蚕毒、ブロフレアは水産動物（甲殻類）に注意する。

3. 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。